

第1卷

Vol.1~Vol.5
1986~1990

OSAKA ACADEMY OF ORAL IMPLANTOLOGY

第1号~第5号



大阪口腔インプラント研究会

大阪口腔インプラント研究会
会長 佐藤文夫

平素は、大阪口腔インプラント研究会へご指導ご鞭撻を賜り厚く感謝申し上げます。

大阪口腔インプラント研究会では、年1回研究会誌を発行し既に22号まで発行済みでございます。また先年、本研究会創設20周年時には記念誌を作製致しました。記念誌には、紙面の都合上20年間の研究活動のタイトルのみを、まとめ掲載致しました。

最近、主に大学図書室よりバックナンバーのご要望が少なからずございます。古くよりの会員にしても創刊号を初め比較的初期の本研究会誌を保存している方は少ないものと考えます。そこで、この度集積集を作製することと致しました。

この20数年間は、まさしく日本における口腔インプラントの成長期・変革期でありました。バックナンバーの初期の多くのものは、今では幼稚な内容であると感じられるかもしれません。しかし、これらもその当時としては真剣に議論したものばかりであり、それ相応に価値あるものであったはずで、今では懐かしいものであります。

このような古い資料は時間と共に散逸し、後になって検索することは大変な作業・苦勞を常と致すものでございます。幸い資料が残存しているこの時期に集積作業を行うことは、後々のため大切なことと考えます。

これに関し通常会誌のように会の全員に配布するのではなく、部数を限り希望者に有料で配布することに致しました。古い先生方にはご自身の過去を振り返ることに、若い先生方には消え去りつつある先輩の苦勞を知っておくことも意味あることと考ます。先生方の座右に記念として置かれることをお薦め致します。

大阪口腔インプラント研究会の発足から23年を振り返って

大阪口腔インプラント研究会・名誉会長 阪本 義樹

臨床医によって開発され、日本に導入されたブレードインプラントは、骨に支持を求めた画期的な補綴方法であったが、当初不確実な臨床データに大学の賛同が得られないまま、患者の必然的な要望と相俟って、臨床先行という形で発展してきました。しかし大学の外来に来院した不良経過などから、時期尚早と表明され、これが普及へ努力を傾注していた先駆者の障壁となり、商業主義の先兵としか認めてもらえない苦難の道が続きました。そのためには先ず成功症例の蓄積が大きな課題であったため、1970年代、導入当初のしばらくは、成功に対して安易な評価を下す甘い傾向もありました。

そこで自己に厳しく、衣を着せず、本音で話し合える場を持ちたいという有志が集い、発足したのがこの研究会であります。

会としての研究テーマは「成功失敗の統一見解の策定」であり、ガイドラインを設定し、インプラントの植立状態、埋入年数のみならず、周囲組織への影響まで追及する厳しいものでした。入会に際しては持参した症例の検討から始まります。年4回開催される例会では活発な質疑が飛び交い、本音を披瀝して時間を忘れた討論は、会場の熱気と共に参会者に強い印象を与えてきました。

会が誇るもう一つの特徴は研究会誌の発行であります。学術講演や例会の記録、会の動向などを全会員伝えると共に、外部の関連団体にも活動の実態を理解してもらう格好の手段でありました。研究会暦年の事業の詳細を残すということは、記録の保存という単純なものでなく、会運営の美意識を飾る顔でもありました。今日までの23年間、会誌は一度の欠号もなく今日に到っていることは、会の存在感・価値感を伝える上においてまことに喜ばしいといわねばなりません。

この23年間を展望しても、材料の改良、器具の規格化、手技のシステム化、周辺組織の改善などインプラントの変革は著しく、これらの流れに取り残されないよう、むしろ積極的に対処して、ここまでこれたのも、会員各位の努力の賜物と感謝しております。

今後、インプラントへの要望は、高齢化、QOLの高まりと共に、さらに伸びていくと思われませんが、ただ単に、歯科領域のみならず、外科、整形の分野での応用も視野に入れて、幅広く考えて行く時代が出来ているように思います。臓器再生の大きな範疇の中で、英知を結集した会員達が、激論を交わしている例会風景が眼に浮かびます。

今後益々の飛躍に大きな期待を寄せて、稿を閉じます。

大阪口腔インプラント研究会 第1巻 目次

巻頭言 大阪口腔インプラント研究会 総集編 巻頭言 会長 佐藤 文夫

大阪口腔インプラント研究会の発足から23年を振り返って 名誉会長 阪本 義樹

第1号	記念講演	インプラントの失敗例から考えられること	阪本 義樹	1
	特別講演	インプラントと骨移植を併用した骨内インプラントの実験的研究	鈴木 和夫	6
	一般講演	骨内インプラント体の頬舌的な位置づけの重要性	西村 敏治	13
		酸化アルミナインプラント単独植立と歯牙移植及びフリーデザインインプラント失敗に関する所見	佐藤 文夫	16
		フリーデザインブレードインプラントを使用し強固な骨植を得るための形態の考案 第二法	福辻 敏	18
		歯内骨内インプラント	岡田 周造	19
		4種類のインプラントを使用して	椿本 雅春	22
		バイオセラムの歯周治療への応用	阿保 幸雄	24
		バイオセラムTタイプを用いた臨床例	福田 和彦	26
	シンポジウム	各種インプラントの比較		
		下顎遊離端症例における金属ブレードインプラント	佐藤 文夫	29
		下顎遊離端症例におけるバイオセラムインプラント	久保 憲昭	31
第2号	特別講演	ハイドロキシアパタイトの工学的考察ならびにその臨床応用	森脇 豊	35
	シンポジウム	各種インプラントの比較		
		形状記憶合金インプラントの概念	阪本 義樹	38
		ITIインプラント(特にFタイプ・Kタイプ)を使用した症例について	金村 時友	41
		私のITIインプラントの臨床	大木 正雄	43
	特別講演	歯科医事紛争の実態と予防	岡本 欣司	45
	一般講演	私のインプラント(バイオセラムインプラント)	窪田 義夫	81
		歯科インプラントの臨床的研究	須田 誠治	83
		遊離端のインプラントについて	西田 尚道	86
		無歯顎におけるバイオセラムインプラントの臨床	池田 博	88
		歯科インプラントに関する私見	高田 勝彦	90
	特別講演	骨形成および骨粗鬆症	高岡 邦夫	93
	一般講演	外傷におけるバイオセラムの応用と補綴	大野 正光	95
		各種アパタイトによる歯槽骨欠損吸収の骨造成の実際	阪本 義樹	98
		口腔外科領域におけるハイドロキシアパタイトの使用知見	石見 隆夫・大野 正光・久保 茂正・西村 敏治	110

第3号	特別講演	ジルコニアセラミックを用いた歯科インプラント	永井 教之	113	
		インプラントと患者の心理	斎藤 稔正	120	
	一般講演	ブローネマルク・システム・インプラント研修会より	佐藤 文夫	121	
		日常臨床における歯牙移植	延藤 直彌	125	
		骨内インプラント術前における骨質精査方法としてのMD法について	久保 茂正・大野 正光・西村 敏治	127	
	特別講演	全身状態を知る上での基礎的な臨床検査について	井上 一男	132	
第4号	一般講演	私のインプラント臨床 一偶発事故症例(第1報)	井上 憲一	133	
		私のインプラント臨床	尾上 好申	136	
		私のインプラント臨床	山田屋孝太郎	138	
		私のインプラント	橋本 収	142	
		資料の収集 スライド撮影について	高田 勝彦	147	
		私の臨床 パリオテストを用いたインプラントへの臨床応用	村上 広樹	151	
	特別講演	歯根膜誘導の可能性を求めて	井上 孝	161	
	一般講演	根未完成歯の自家移植による歯髄および歯周組織の経年的観察(第1報)	大道 昭仁	167	
	第5号	特別講演	Osseointegration-20世紀の奇跡	末次 恒夫	173
		長期症例	私の長期経過症例	久保 慈昭	179
招待講演		医科領域におけるコラーゲンの展望	宮田 暉夫	186	
一般講演		新しく開発したチタンインプラント(T.M.I)に関する臨床的研究	今井 元治・他6名	192	
		私のインプラント	須田 宣之	195	
特別講演		医療用チタン材料	伊藤 喜昌	199	
		生体活性ガラス(SE51)を用いた人工歯根の開発と臨床応用について	(株)ニコン医用材料事業推進室	204	